

2026 年 7 月 度 中 部 品 質 工 学 研 究 会 議 事 録

1. 開催日時2026/7/4 (土) 10:00～16:00
2. 開催場所アイテック・インターナショナル
3. 会員参加者<敬称略> S：オンサイト出席・L：オンライン出席、欠：欠席、書：書記、休：休会

大見	書	牧野	S	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	欠	出島	欠	水田	S
山口(展)	S	黒田	S	山口(直)	S	前田	S	木村	S	前田	S	木村	S	北川	S
北村専務	L									池田	休	鈴木	休	藤井	休
小西	休	中山	休	李	休	河合	休	則尾	休	杉浦	休	福田	休		

4. 研究会内容（敬称略）

1）RQES2026振り返り(城越)

インドのTVSモータからも4名参加、ここは中部品質工学研究会の運営基盤でもあるアイテックインターナショナルがコンサルタントをしている。発表は、パラメータ設計よりMT法の事例が多い。生成AIのNotebookLMを使い過去論文をもとに教育目的のパワーポイント資料を作るツールの紹介があり、業務効率化する事例として注目されていた。中部からの発表は盛況で質問も多かった。

2）利き酒まとめ：昨年合宿研究会実験（前田）

2024-2025年度の合宿で実施した利き酒官能試験について、結果を共有した。
年齢、アルコール耐性、鼻炎の有無、日本酒の好き嫌い、の4条件で層別して解析した。
利得の差は年齢が最も大きく、低年齢、高アルコール耐性、鼻炎無し、日本酒好きの条件で識別能力が高くなった。
2026年度も試験を実施し、データ数を増やして再度解析する予定とした。

3）研究会理念（山口直）

研究会の基本理念策定の背景
今後の当研究会のあり方を検討するにあたり、「各メンバーの参加目的」や「輪講に代わる活動内容」などの具体的なテーマを議論する前に、まず前提となる「基本理念」を明確にする必要があるとの認識で一致し、議論を行った。
●決定事項：中部品質工学研究会の基本理念
議論の結果、当研究会の基本理念を以下の通り決定した。
<基本理念>
本研究会では、課題を抱える会員や見学者を対象に、以下の取り組みを通じて実効性の高い解決策の創出を目指す。
・課題解決の支援
「実験による評価」と「既存データの解析」の両面から、短期間で実行できる実践的な解決策を見出すための支援を行う。
・多角的な視点の導入
異業種の会員による多角的な視点を取り入れることで、より幅広い解決アイデアを生み出す。
●決定事項：研究会の名称について
事前の検討事項に挙がっていた「研究会の名称」については変更を行わず、現状の「中部品質工学研究会」という名称を継続して使用することを決定した。
【次回以降の検討課題】
今回決定した基本理念に基づき、現在の研究会が抱える課題解決に向け、次回以降の会合にて以下の項目について引き続き協議を行う。
・会員数を増加させる方策の検討（現在の会員数減少という課題を踏まえて）
・各メンバーの参加目的の共有
・輪講に代わる具体的な活動内容の企画

4）黒田さん教育資料レビュー（黒田）

- ・直交表に関する教材について発表し、具体的な文言に関する指摘や、視覚的な問題など色々な指摘やアドバイスを頂いた。
- ・これらを元にさらなるブラッシュアップを行う予定。

5）事務局連絡

今年の合宿は11月 7， 8 日とする。
・北川さんより自然言語についての相談予定。
・教材再検討する？ 紙コプターの制御因子の範囲が広すぎた
・コマ実験はタカノに説明できないか？コマ実験の論文は学会のものになっており使用許諾が必要。RQESの発表資料の使用許諾方法について大見が学会総務の千葉さんに問い合わせる。